

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-9	中学校	社会	社会 (歴史的分野)	第1-3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	歴史 046-72	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き		

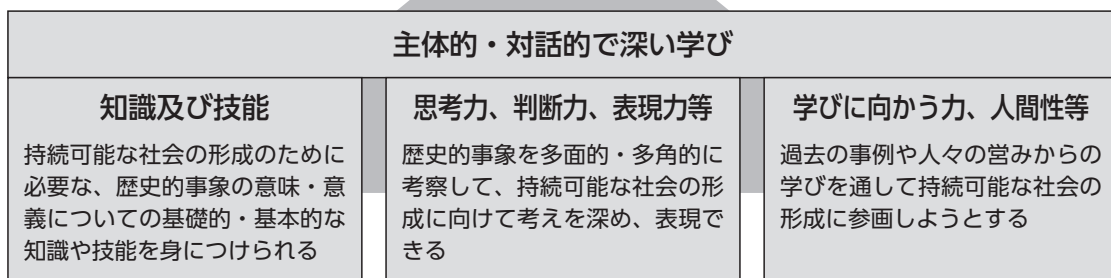
1. 編修の基本方針

教育基本法第2条に関する総合的な基本方針

本教科書は、教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するために、以下の考え方で編修にあたりました。

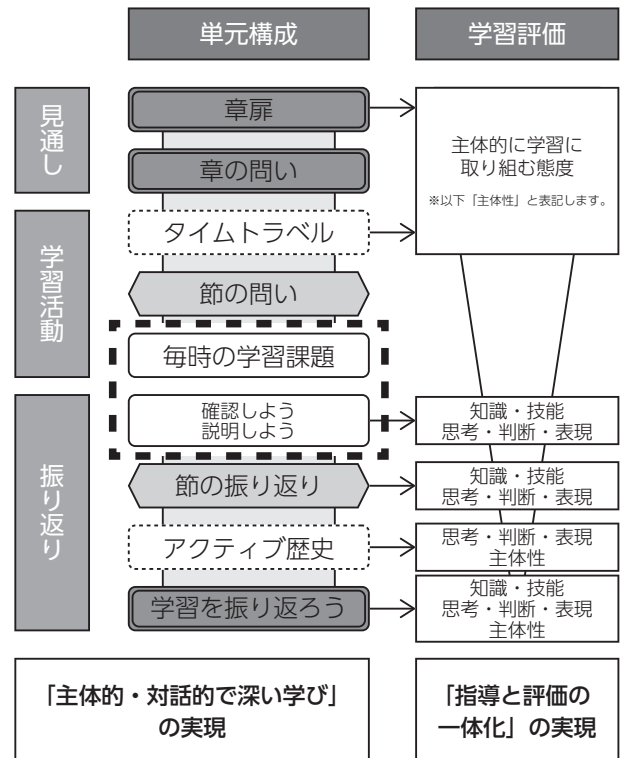
編修の基本理念

持続可能な社会の形成に参画する主権者となり、予測困難な時代を生き抜く力を育む



問いを軸にした単元構成の構造化によって、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現

- ・章・節・各本文ページそれぞれの冒頭では、学習する内容を問い（「章の問い」「節の問い」「毎時の学習課題」）で示し、生徒みずからが学習の見通しをもてるようにしています。また、それらの問いの対となるように、章・節・各本文ページの末尾に課題（「学習を振り返ろう」「節の振り返り」「確認しよう」「説明しよう」）を設けています。
- ・そして、それぞれの問いと課題では、協働的に学習する場面を設定しています。これらの構造化された単元構成と学習方法の工夫によって、「主体的・対話的で深い学び」が実現できます。
- ・それぞれの学習活動では、3つの資質・能力を特に育成する場面を設けることで、学習を見取ることができ、3つの観点に基づいた「指導と評価の一体化」が実現できます。



▲見通しと振り返りを軸とした本書の単元構成と学習評価との対応

教育基本法第2条第1号に関する基本方針

時代像イラストや理解しやすい本文、ビジュアルな資料により、意欲的に学びに向かう態度を育成

- ・大きなイラストで各時代の社会の様子を概観する特設「タイムトラベル」（全12テーマ）を、各時代のはじめに設けています。イラストの読み解きや歴史的な見方・考え方を働かせる活動を通じて、当時の社会への興味・関心を高め、

学びに向かう意欲を喚起します。

- 全体を通して、時代の特色が分かる写真や資料を豊富に掲載し、歴史的な背景が分かる丁寧な記述にすることで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるようにしています。
- 巻頭「**歴史的な見方・考え方**」では、学習指導要領で示された歴史的な見方・考え方を、例を用いて紹介し、学習上での働きかけ方を確認・整理できます。また、「**見方・考え方アイコン**」を「タイムトラベル」や「学習を振り返ろう」などに設け、生徒の思考力を養います。

教育基本法第 2 条第 2 号に関する基本方針

資料を活用する活動や思考を深める活動を通じて、自主・自律の精神をもって創造に取り組む資質を育成

- 「**技能をみがく**」コーナーを、14 か所設けています。資料や図表の見方といった基礎的・基本的なスキルに加え、調査の方法や多面的・多角的に分析する力を身につけることができます。生徒がみずから歴史学習に取り組むために必要となる、基礎的・基本的な技能の習得を目指します。
- 巻頭「**考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～**」で、学習で有用な思考ツールを紹介しています。特設「**アクティブ歴史**」のパフォーマンス課題や「**学習を振り返ろう**」の単元のまとめの活動でも、思考ツールを多用しており、実際の活動を通じて、扱い方を学んでいきます。
- 「**人物コラム**」を、49 か所設けています。歴史上の人物たちの主体的な取り組みや、当時の社会的課題へのアプローチを学ぶことによって、自主・自律の精神を養います。

教育基本法第 2 条第 3 号に関する基本方針

資料を基にして議論を行う活動や現代社会の諸課題を考察する活動を通じて、社会参画に向けた態度と資質を育成

- パフォーマンス課題を設定した**アクティブ・ラーニング型**の授業を行える「**アクティブ歴史**」を 5 か所設けており、各種資料を基にした対話的な学習を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしています。特に近代以降では、当時の社会でみられた課題について、さまざまな資料や意見を比較・選択する活動を通して、社会の多様性を理解するとともに、自他を敬愛した公共の精神に基づく正義感や責任感が養えます。
- 「**学習を振り返ろう**」で「『**これからの社会を構想しよう**』への準備」を設け、各時代の特色と現代社会の諸課題を関連づける活動を行います。また、最終単元「**これからの社会を構想しよう**」では、これらの活動を整理した上で現代社会の諸課題について解決策を考えることで、歴史的な背景を踏まえた、社会参画への態度を養えます。

教育基本法第 2 条第 4 号に関する基本方針

人権や環境・エネルギー、防災などに関する過去の取り組みについて豊富に掲載し、持続可能な開発目標 (SDGs) の意義への理解を促進

- 持続可能な開発目標 (SDGs) と歴史の関連を意識できる「**未来に向けて**」を、特設で 2 か所、コラムで 63 か所設け、人権獲得に向けた取り組みや、過去に行われた環境保全、自然災害への対策などについて積極的に取り上げています。歴史上のさまざまな取り組みを知ることで、SDGs への理解が深まるように配慮しています。

教育基本法第 2 条第 5 号に関する基本方針

各時代の地域の営みや政治・経済と結びついた文化を豊富に紹介し、日本の伝統と文化への理解を促進




- 特設「**歴史を探ろう**」、コラム「**地域史**」では、歴史の主要な舞台とは異なる地域事例を紹介しています。各地の文化や産業の理解を促し、当時の社会の様子についてさまざまな視点で捉えることができます。
- **各時代の文化史**を、原則 1 単元 4 ページにわたって紹介し、文化財などの写真を豊富に掲載しています。また、政治・経済と文化を結びつけた本文から、歴史的な背景を踏まえて、日本の伝統と文化への理解を深めることができます。
- 日本と世界のつながりが重視される単元に、特設「**世界とのつながりを考えよう**」を設けています。日本の歴史に関連する世界の動きを理解することで、国際的な視野に立って自国の風土や特色を捉えることができます。

2. 対照表

教育基本法第2条の各号に定められた教育の目標を実現するために、教科書全体を通して次の配慮をしています。

本書の構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 歴史のとらえ方と調べ方	歴史の調べ方についての「技能をみがく」コーナーを充実させ、情報分析の技能を育成し、自主・自律の精神を育めるようにしました。(第2号)	4~13
	身近な地域の歴史を調べる学習では、地域の生活に根差す遺物を事例として取り上げ、郷土愛を養えるようにしました。(第5号)	8~13
第2章 古代国家の成立と東アジア	古代の日本の国づくりについて、為政者だけでなく、庶民からも捉えられるよう配慮しており、社会の形成に対する考えを深められます。(第3号)	26~27、 36~43、 52~55
	唐とイスラム帝国、シルクロードに関する本文記述を充実させ、ワイドな地図や唐の都のイラストを設けています。外国の歴史や文化に興味・関心をもてるよう配慮したほか、日本の歴史に大きな影響を与えた国際情勢の理解の促進に配慮しています。(第1・5号)	44~45、 50~51
第3章 武家政権の成長と東アジア	中世の「自分たちのことは、自分たちの力で解決する」という考え方の形成と、それに伴う人々のヨコの結びつきの成長について、丁寧に記述したことで、自他の敬愛に基づく主体的な社会参画への態度を養えるようにしました。(第3号)	64~67、 90~95
	琉球とアイヌ民族の歴史を本文で充実させたほか、「歴史を探ろう」やコラム「地域史」を各所で設けたことで、日本の伝統文化への理解を多面的・多角的に深められるようにしました。(第5号)	82~83、 88~89
	コラム「未来に向けて」などで、人権に関わる内容を扱い、立場の異なるさまざまな人々への理解を促すことで、生命や個人の価値を尊ぶ態度を養えるようにしました。(第3号)	92~93、 98~101
第4章 武家政権の展開と世界の動き	ヨーロッパの変革と海外進出に関する本文記述を充実させ、ワイドな地図を設けることで、日本の歴史に大きな影響を与えた国際情勢の理解の促進に配慮しています。ヨーロッパの発展に際してのイスラム文明からの影響も丁寧に記述し、社会の変化への多面的・多角的な理解を促しています。(第5号)	106~113
	特設「歴史を探ろう」で北前船による日本各地の結びつきや江戸の暮らしを扱ったほか、琉球とアイヌ民族の歴史を特設も設けて充実させたことで、日本の伝統文化への理解をさまざまな視点で深められるようにしました。(第5号)	130~133、 142~143、 154~155
	コラム「未来に向けて」で、江戸のリサイクルを扱うなど、自然との共生を考えるヒントとなるようにしました。(第4号)	155
第5章 近代国家の歩みと国際社会	欧米諸国の社会の「近代化」や「近代国家」の建設について、丁寧に解説したほか、ワイドな地図や産業革命期のイギリスのイラストを設けて、日本の歴史に大きな影響を与えた国際情勢の理解の促進に配慮しています。(第5号)	162~175
	「近代化」による社会の変化について、文明開化と都市・農村、北海道開拓とアイヌ民族、殖産興業と地方振興などの面を、特設も設けて充実して扱うことで、日本の伝統文化への理解を多面的・多角的に深められるようにしました。(第5号)	186~193、 196~199、 214~219
	領土の画定について、経緯を丁寧に記述し、それに関する開国以来の日本政府の取り組みが国際法に則ったものであることが理解できるようにしました。なお、経緯の詳細は、領土問題の発生に至る経緯と併せて、第7章のp.286-287で特設にまとめて通覧できるようにしています。(第5号)	194~197、 286~287

第6章 二度の世界大戦と日本	コラム「未来に向けて」を豊富に設け、さまざまな差別の撤廃など社会的な課題の解決に、実社会の人々が取り組む姿の描写を充実させたことで、社会的な正義感・責任感や公共の精神を養えるようにしました。(第3号)	233、235、241、255、263
	世論の影響から、社会の公正さが拡大された面と、戦争に向かう動きが加速された面との双方を、本文で丁寧に記述することで、周囲の空気に安易に流されず、多面的・多角的な考察のもと主体的に社会参画していく重要性を意識できるよう、配慮しています。(第3号)	238~241、252~259
	不景気や戦争のなかでの人々の暮らしや、戦争の惨禍について、丁寧に描写し、国際協調に寄与する態度を養えるようにしました。(第5号)	250~251 258~271
第7章 現在に続く日本と世界	人権や平和など、現代が抱える諸課題に関するコラムを各所に設け、より良い未来を創造するための知識と態度を育めるようにしました。(第3号)	283、285、289、293、301、303
これからの社会を構想しよう	歴史的な見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考える学習活動に取り組むことで、さまざまな立場や考え方へのまなざしを備えた社会形成の態度を養えるよう配慮しました。(第3号)	307~309
学びを深める工夫	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	学習内容に応じた主題とパフォーマンス課題を設定した、「 アクティブ歴史 」を設けています。資料を用いた話し合い活動を通じて、課題に粘り強く向き合います。他者の考えを踏まえて、学びを深めます。(第1・3号)	34~35、156~157など 特設全5テーマ
	持続可能な社会の形成の事例を「 未来に向けて 」で取り上げています。「 環境・エネルギー 」「 防災 」「 人権・多文化 」「 平和・安全 」「 情報・技術 」「 伝統・文化 」の6テーマを地理・歴史・公民の3分野で扱い、SDGsの達成に向けて主体的に取り組む態度を身につけることができます。(第3・4・5号)	巻頭1~2など 特設全2テーマ 49、80、139、179、289など コラム全63テーマ
	各分野の学習で必要な技能を紹介する、「 技能をみがく 」を設けています。主体的に探究学習に取り組む自主・自律の精神を身につけるとともに、学習の基礎的スキルを習得することができます。(第2号)	10、56など 全14テーマ
	歴史的分野の発展的な事例を紹介する、「 歴史プラス 」を設け、生徒の興味をかき立てるとともに、学習内容の理解を更に深めることができます。(第1号)	87、243など 全37テーマ
	周囲との対話を促す「 対話アイコン 」を設けています。話し合い活動を通じて、自身の考えをより深めるとともに、他の意見を尊重する態度を身につけることができます。(第1・3号)	77、211ほか 随所
	社会的な見方・考え方を働かせるための視点を示す「 見方・考え方アイコン 」を設け、課題解決に必要な思考力を深めることができます。(第1号)	34、61ほか 随所
	「 資料活用アイコン 」を設け、統計や写真から情報を読み取る力を、日々の学習で身につけることができます。(第2号)	85、300ほか 随所
	地図帳の活用を促す「 地図帳活用アイコン 」を設けています。地形の読み解きや統計資料をもとに、地理的事象と関連させた、深い学びを得ることができます。(第1号)	96、140ほか 随所
	「 解説 」を側注欄に設けています。重要な概念やわかりにくい用語について丁寧に説明し、学習内容の理解を深めることができます。(第1号)	41、231ほか 随所
	学習に有用な 思考ツール を巻頭9で丁寧に紹介し、特設ページの話し合い学習でも積極的に使用しています。思考ツールを効果的に用いて、課題解決に取り組む力を身につけることができます。(第2号)	巻頭9ほか 随所

	<p>各時代を概観するワイドなイラスト「タイムトラベル」を設け、前の時代と比較したり疑問点を発見したりして、当時の社会への興味・関心を高めることができます。(第1号)</p>	<p>236~237など 全12テーマ</p>
	<p>世界各地のつながりや社会の様子を、イラスト・地図で捉える「世界とのつながりを考えよう」を設け、世界史の興味・関心を高め、現在につながる国際情勢の理解を促します。(第1・5号)</p>	<p>50~51など イラスト編2テーマ 78~79など 地図編4テーマ</p>
<p>人物コラム</p>	<p>「人物コラム」を掲載し、歴史上の人物の取り組みから、自主・自律した姿勢や個人の創造性が社会の変化につながることを実感できます。(第2号)</p>	<p>100、181など 全49名</p>
	<p>歴史上の地域事例を紹介する、コラム「地域史」や特設「歴史を探ろう」を豊富に掲載し、歴史的事象をさまざまな視点で捉えるとともに、地域の歴史を通じて、郷土を愛する態度を養うことができます。(第5号)</p>	<p>33、125など コラム全16テーマ 246~247など 特設11テーマ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. すべての生徒が使いやすいユニバーサルデザインに基づいた編修

- ・特別支援教育の専門家からの助言をもとに、図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、**インクルーシブ教育**へ配慮した編修を行っています。
- ・文字は、読みやすい**ユニバーサルデザインフォント**を採用しています。また、重要語句を示すゴシック体の太さやルビの見やすさにも工夫を凝らしました。
- ・配色は、色覚特性に配慮した**識別しやすい色づかい**となるように工夫しています。また、図版に模様や線、記号などを使用することによって、**色以外からも情報を読み取れる**ようにしています。
- ・学習者用デジタル教科書を発行し、ふりがなや音読、色の反転などの機能を付加しています。

2. 生徒の個別最適な学びを支援する QR コンテンツ

- ・学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するコンテンツを多数掲載し、**個別最適な学び**を支援します。
- ・教科書の学習内容とリンクした「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」のイラスト・地図や「学習を振り返ろう」「アクティブ歴史」のワークシートなどで、**学習内容の定着**を支援します。
- ・「用語解説」「巻末年表」のほか「NHK for School」や「リンク集」など、生徒が**みずから学習内容を深める**際の足がかりとなるコンテンツを用意しています。
- ・そのほか「他分野教科書リンク」「教科書を活用した学び方」「思考ツール・白地図」を掲載しています。

3. 指導しやすさ・学びやすさ向上のための取り組み

- ・小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・地理・公民・他教科の関連」や「小・地・公の関連アイコン」を示し、既習事項を踏まえて、物事を**多面的・多角的に捉える**足がかりを設けました。また、分野間・教科間での**カリキュラムマネジメント**を実施する指標となるようにしています。
- ・**1見開き1時間**での授業を原則とし、適切な分量で学習計画を立てやすくしています。「学習を振り返ろう」も含めて、総授業時数を130時間（標準時間135時間）としています。
- ・単元が進むに従い、学習課題やまとめで問う内容をより高度にするなど、発達段階に配慮しています。
- ・男女のイラストで役割を限定しないなど、**ジェンダーの固定観念をもたない**ように配慮しました。

4. 使いやすく、環境に配慮した印刷・製本の工夫

- ・紙は軽くて丈夫で、写真や図版が鮮明にうつるものを使用しています。
- ・再生紙を用いた紙と国産米の米ぬかからつくられるインキを使用し、環境への配慮をしています。
- ・堅牢な造本方式を採用し、使用期間中壊れることがないようにしています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-9	中学校	社会	社会 (歴史的分野)	第1 - 3 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	歴史 046-72	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

これからの予測困難な時代に対応し、持続可能な社会の形成に参画する力を育むために、この教科書では、特に以下の点に意を用いて編修しています。

特色1 「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現する工夫

1. 「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現する単元と問いの構成

①学習の見通しと振り返りに最適な単元構成

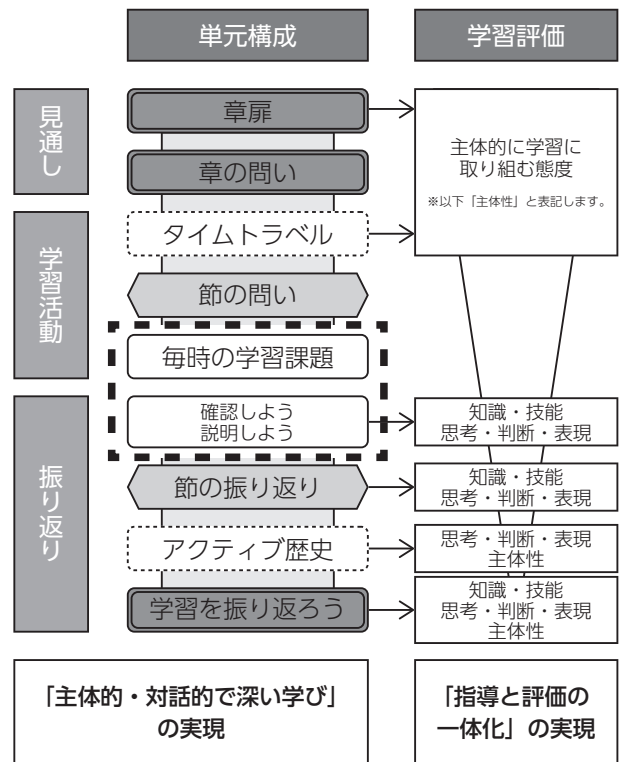
・章を基本単元とし、学習の見通しと振り返りがしやすい単元の構成にしています。学習の見通しと振り返りを通して、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現できます。

学習の見通し 単元のはじめに設定した「章扉」では、小学校の学習事項や前の単元で学習したことを踏まえ、単元の学びを見通す活動を行います。また、各時代のはじめに置かれた「タイムトラベル」ではイラストを通じて、当時の社会に対する興味・関心を高めることができます。

学習の振り返り 単元のまとめとして設定した「学習を振り返ろう」では、思考ツールや「対話的な学び」を通して、章の問いに取り組み、単元の学習を振り返ることができます。

「主体的・対話的で深い学び」の実現 「章扉」や「タイムトラベル」を活用し、学習の見通しを立てて学びを進めていくことで、「主体的な学び」を実現できます。また、「学習を振り返ろう」を活用し、思考ツールや話し合い活動を通して「対話的な学び」や「深い学び」を実現できます。

「指導と評価の一体化」の実現 「タイムトラベル」や「学習を振り返ろう」を活用して節の問いや章の問いに取り組むことで、習得した「知識・技能」やそれを活用した「思考・判断・表現」を評価できます。また、単元を通した見通しと振り返りによって、みずからの学びを調整し、粘り強く取り組む「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができます。



▲見通しと振り返りを軸とした本書の単元構成と学習評価との対応



▲章扉 (p.105)



▲学習を振り返ろう (p.158-160)

1) 時代の特色を考えるにあたって、次の作業を行って、あなたの年代を完成させよう。

2) 政治や国際関係の変化で重要であると考えられる出来事に影響を受けた、生活や社会の様子について書き、考え出し事項は簡潔に記述しよう。

3) 「章の問い」に対する考えをまとめることで、大切にしたい出来事を書き出し、関係のある出来事どうしを矢印で結ぶようにしよう。

4) 地中から掘りかき出されるものを、年表の下の下書きから選ぼう。

5) それぞれの節の学習を振り返り、「節の問い」に対する新たな考えをまとめよう。

① タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル(向安三郎時代)や(江戸時代)を比較して、大きく変化したことや、重要だと感じたことを書き出そう。また、なぜそう感じたのか、理由も書けるようにしよう。

タイムトラベルを繰り返す際は、キーワードを設定し、見方・考え方を動かそう。

見方(見-写)をキーワードにする。こんなことに気づく。

見方(見-写)をキーワードにする。こんなことに気づく。

見方(見-写)をキーワードにする。こんなことに気づく。

② ほかの人と話し合って「章の問い」を考察しよう。

③ ②で気づけたことや自分の年代に「マープ」したと、統一政権の誕生による社会の変化を考察するにあたって重要だと感じたことについて、あなたの考えを整理しよう。例えば右のように、それぞれの事項がどのように関連するのかを整理して考えよう。

グループになり、整理したことから特に大きな変化だと感じたこととその理由を意見交換しよう。発表にあたっては、「節の問い」を参考にし、そのことの意味や関係、結果や影響を語ろう。

▲年表や地図を使った学習事項の確認 (p.158)

▲タイムトラベルの「振り返り」(p.159)

▲思考ツールを用いた章の問いの考察 (p.159-160)

②深い学びと学習評価を実現する構造化された問い

- 各單元には、單元を貫く問い「章の問い」、小単元の問い「節の問い」、毎時の問い「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」を設定しています。役割と関連を明確にしているので、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力」の3つの資質・能力を着実に育成でき、それぞれの観点別評価を適切に行うことができます。

【構造化された問い (4章4節の場合)】

▶ 問いの種類と観点別評価

單元を貫く問い (章の問い)	全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。
小単元の問い (節の問い)	なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。
毎時の問い (学習課題、確認しよう、説明しよう)	<p>【学習課題】 江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのだろうか。</p> <p>【確認しよう】 幕府・大名や農民が米の生産量を増やすために行ったことを、それぞれ本文から書き出そう。</p> <p>【説明しよう】 国内産業の発達が社会に与えた影響はどのようなものだったか、説明しよう。</p>

問いの種類	観点別評価への対応			
	知	思・判	表	主
章の問い	○	◎	◎	◎
節の問い	○	◎	○	○
学習課題	◎	○	○	○
確認しよう	◎	○	○	○
説明しよう	◎	◎	○	○

◀ 学習課題、確認しよう、説明しよう (p.138-139)

2. 「主体的・対話的で深い学び」を具現化し活動型の学習を促す「アクティブ歴史」

- 特設ページ「アクティブ歴史」では、具体的なテーマを設定した活動型の学習を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現できます。

活動を促すさまざまなパフォーマンス課題 江戸時代に起きた仇討ち事件の処罰を下す、当時の世界の動きから明治維新後の日本が他国とどのような関係を築くべきかを考えるなど、時代の特色やその背景を考察するパフォーマンス課題を設定しています。ペーパーテストでは測りにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに最適です。

対話を中心とした活動型学習 各種資料をもとに自身の考えをまとめ、生徒どうしで意見交換をすることで、対話を通じた「深い学び」を実現できます。

見方・考え方の活用 タイトル脇にはページ全体で働かせる「見方・考え方」を明示しています。「見方・考え方」を働かせる問いを、学習場面に併せて設定しています。

見方・考え方
3人の意見の背景となる、世界の動きに着目しよう。

ページ	アクティブ歴史
p.34-35	前方後円墳の役割を考察する
p.76-77	武士の暮らしから考察する
p.156-157	赤穂事件を考察する
p.204-205	『三酔人経綸問答』を考察する
p.248-249	「母性保護論争」を考察する

▼『三酔人経綸問答』を考察する (p.204-205)

アクティブ歴史 AL

『三酔人経綸問答』を考察する

学習 明治維新は、今後の日本の発展に大きな影響を与えました。この時代の特色や背景を考察し、その後の日本が他国とどのような関係を築くべきかを考えるなど、パフォーマンス課題を設定しています。

テーマ 明治維新後、国家建設が進むなかで、日本は他国とどのようにつきあうべきだろうか。

【背景】 1857年(安政4年)に開港した横浜は、1868年(明治元年)に開港した神戸、1869年(明治2年)に開港した横浜、1870年(明治3年)に開港した神戸、1871年(明治4年)に開港した横浜、1872年(明治5年)に開港した神戸、1873年(明治6年)に開港した横浜、1874年(明治7年)に開港した神戸、1875年(明治8年)に開港した横浜、1876年(明治9年)に開港した神戸、1877年(明治10年)に開港した横浜、1878年(明治11年)に開港した神戸、1879年(明治12年)に開港した横浜、1880年(明治13年)に開港した神戸、1881年(明治14年)に開港した横浜、1882年(明治15年)に開港した神戸、1883年(明治16年)に開港した横浜、1884年(明治17年)に開港した神戸、1885年(明治18年)に開港した横浜、1886年(明治19年)に開港した神戸、1887年(明治20年)に開港した横浜、1888年(明治21年)に開港した神戸、1889年(明治22年)に開港した横浜、1890年(明治23年)に開港した神戸、1891年(明治24年)に開港した横浜、1892年(明治25年)に開港した神戸、1893年(明治26年)に開港した横浜、1894年(明治27年)に開港した神戸、1895年(明治28年)に開港した横浜、1896年(明治29年)に開港した神戸、1897年(明治30年)に開港した横浜、1898年(明治31年)に開港した神戸、1899年(明治32年)に開港した横浜、1900年(明治33年)に開港した神戸、1901年(明治34年)に開港した横浜、1902年(明治35年)に開港した神戸、1903年(明治36年)に開港した横浜、1904年(明治37年)に開港した神戸、1905年(明治38年)に開港した横浜、1906年(明治39年)に開港した神戸、1907年(明治40年)に開港した横浜、1908年(明治41年)に開港した神戸、1909年(明治42年)に開港した横浜、1910年(明治43年)に開港した神戸、1911年(明治44年)に開港した横浜、1912年(明治45年)に開港した神戸、1913年(明治46年)に開港した横浜、1914年(明治47年)に開港した神戸、1915年(明治48年)に開港した横浜、1916年(明治49年)に開港した神戸、1917年(明治50年)に開港した横浜、1918年(明治51年)に開港した神戸、1919年(明治52年)に開港した横浜、1920年(明治53年)に開港した神戸、1921年(明治54年)に開港した横浜、1922年(明治55年)に開港した神戸、1923年(明治56年)に開港した横浜、1924年(明治57年)に開港した神戸、1925年(明治58年)に開港した横浜、1926年(明治59年)に開港した神戸、1927年(明治60年)に開港した横浜、1928年(明治61年)に開港した神戸、1929年(明治62年)に開港した横浜、1930年(明治63年)に開港した神戸、1931年(明治64年)に開港した横浜、1932年(明治65年)に開港した神戸、1933年(明治66年)に開港した横浜、1934年(明治67年)に開港した神戸、1935年(明治68年)に開港した横浜、1936年(明治69年)に開港した神戸、1937年(明治70年)に開港した横浜、1938年(明治71年)に開港した神戸、1939年(明治72年)に開港した横浜、1940年(明治73年)に開港した神戸、1941年(明治74年)に開港した横浜、1942年(明治75年)に開港した神戸、1943年(明治76年)に開港した横浜、1944年(明治77年)に開港した神戸、1945年(明治78年)に開港した横浜、1946年(明治79年)に開港した神戸、1947年(明治80年)に開港した横浜、1948年(明治81年)に開港した神戸、1949年(明治82年)に開港した横浜、1950年(明治83年)に開港した神戸、1951年(明治84年)に開港した横浜、1952年(明治85年)に開港した神戸、1953年(明治86年)に開港した横浜、1954年(明治87年)に開港した神戸、1955年(明治88年)に開港した横浜、1956年(明治89年)に開港した神戸、1957年(明治90年)に開港した横浜、1958年(明治91年)に開港した神戸、1959年(明治92年)に開港した横浜、1960年(明治93年)に開港した神戸、1961年(明治94年)に開港した横浜、1962年(明治95年)に開港した神戸、1963年(明治96年)に開港した横浜、1964年(明治97年)に開港した神戸、1965年(明治98年)に開港した横浜、1966年(明治99年)に開港した神戸、1967年(明治100年)に開港した横浜、1968年(明治101年)に開港した神戸、1969年(明治102年)に開港した横浜、1970年(明治103年)に開港した神戸、1971年(明治104年)に開港した横浜、1972年(明治105年)に開港した神戸、1973年(明治106年)に開港した横浜、1974年(明治107年)に開港した神戸、1975年(明治108年)に開港した横浜、1976年(明治109年)に開港した神戸、1977年(明治110年)に開港した横浜、1978年(明治111年)に開港した神戸、1979年(明治112年)に開港した横浜、1980年(明治113年)に開港した神戸、1981年(明治114年)に開港した横浜、1982年(明治115年)に開港した神戸、1983年(明治116年)に開港した横浜、1984年(明治117年)に開港した神戸、1985年(明治118年)に開港した横浜、1986年(明治119年)に開港した神戸、1987年(明治120年)に開港した横浜、1988年(明治121年)に開港した神戸、1989年(明治122年)に開港した横浜、1990年(明治123年)に開港した神戸、1991年(明治124年)に開港した横浜、1992年(明治125年)に開港した神戸、1993年(明治126年)に開港した横浜、1994年(明治127年)に開港した神戸、1995年(明治128年)に開港した横浜、1996年(明治129年)に開港した神戸、1997年(明治130年)に開港した横浜、1998年(明治131年)に開港した神戸、1999年(明治132年)に開港した横浜、2000年(明治133年)に開港した神戸、2001年(明治134年)に開港した横浜、2002年(明治135年)に開港した神戸、2003年(明治136年)に開港した横浜、2004年(明治137年)に開港した神戸、2005年(明治138年)に開港した横浜、2006年(明治139年)に開港した神戸、2007年(明治140年)に開港した横浜、2008年(明治141年)に開港した神戸、2009年(明治142年)に開港した横浜、2010年(明治143年)に開港した神戸、2011年(明治144年)に開港した横浜、2012年(明治145年)に開港した神戸、2013年(明治146年)に開港した横浜、2014年(明治147年)に開港した神戸、2015年(明治148年)に開港した横浜、2016年(明治149年)に開港した神戸、2017年(明治150年)に開港した横浜、2018年(明治151年)に開港した神戸、2019年(明治152年)に開港した横浜、2020年(明治153年)に開港した神戸、2021年(明治154年)に開港した横浜、2022年(明治155年)に開港した神戸、2023年(明治156年)に開港した横浜、2024年(明治157年)に開港した神戸、2025年(明治158年)に開港した横浜、2026年(明治159年)に開港した神戸、2027年(明治160年)に開港した横浜、2028年(明治161年)に開港した神戸、2029年(明治162年)に開港した横浜、2030年(明治163年)に開港した神戸、2031年(明治164年)に開港した横浜、2032年(明治165年)に開港した神戸、2033年(明治166年)に開港した横浜、2034年(明治167年)に開港した神戸、2035年(明治168年)に開港した横浜、2036年(明治169年)に開港した神戸、2037年(明治170年)に開港した横浜、2038年(明治171年)に開港した神戸、2039年(明治172年)に開港した横浜、2040年(明治173年)に開港した神戸、2041年(明治174年)に開港した横浜、2042年(明治175年)に開港した神戸、2043年(明治176年)に開港した横浜、2044年(明治177年)に開港した神戸、2045年(明治178年)に開港した横浜、2046年(明治179年)に開港した神戸、2047年(明治180年)に開港した横浜、2048年(明治181年)に開港した神戸、2049年(明治182年)に開港した横浜、2050年(明治183年)に開港した神戸、2051年(明治184年)に開港した横浜、2052年(明治185年)に開港した神戸、2053年(明治186年)に開港した横浜、2054年(明治187年)に開港した神戸、2055年(明治188年)に開港した横浜、2056年(明治189年)に開港した神戸、2057年(明治190年)に開港した横浜、2058年(明治191年)に開港した神戸、2059年(明治192年)に開港した横浜、2060年(明治193年)に開港した神戸、2061年(明治194年)に開港した横浜、2062年(明治195年)に開港した神戸、2063年(明治196年)に開港した横浜、2064年(明治197年)に開港した神戸、2065年(明治198年)に開港した横浜、2066年(明治199年)に開港した神戸、2067年(明治200年)に開港した横浜、2068年(明治201年)に開港した神戸、2069年(明治202年)に開港した横浜、2070年(明治203年)に開港した神戸、2071年(明治204年)に開港した横浜、2072年(明治205年)に開港した神戸、2073年(明治206年)に開港した横浜、2074年(明治207年)に開港した神戸、2075年(明治208年)に開港した横浜、2076年(明治209年)に開港した神戸、2077年(明治210年)に開港した横浜、2078年(明治211年)に開港した神戸、2079年(明治212年)に開港した横浜、2080年(明治213年)に開港した神戸、2081年(明治214年)に開港した横浜、2082年(明治215年)に開港した神戸、2083年(明治216年)に開港した横浜、2084年(明治217年)に開港した神戸、2085年(明治218年)に開港した横浜、2086年(明治219年)に開港した神戸、2087年(明治220年)に開港した横浜、2088年(明治221年)に開港した神戸、2089年(明治222年)に開港した横浜、2090年(明治223年)に開港した神戸、2091年(明治224年)に開港した横浜、2092年(明治225年)に開港した神戸、2093年(明治226年)に開港した横浜、2094年(明治227年)に開港した神戸、2095年(明治228年)に開港した横浜、2096年(明治229年)に開港した神戸、2097年(明治230年)に開港した横浜、2098年(明治231年)に開港した神戸、2099年(明治232年)に開港した横浜、2100年(明治233年)に開港した神戸、2101年(明治234年)に開港した横浜、2102年(明治235年)に開港した神戸、2103年(明治236年)に開港した横浜、2104年(明治237年)に開港した神戸、2105年(明治238年)に開港した横浜、2106年(明治239年)に開港した神戸、2107年(明治240年)に開港した横浜、2108年(明治241年)に開港した神戸、2109年(明治242年)に開港した横浜、2110年(明治243年)に開港した神戸、2111年(明治244年)に開港した横浜、2112年(明治245年)に開港した神戸、2113年(明治246年)に開港した横浜、2114年(明治247年)に開港した神戸、2115年(明治248年)に開港した横浜、2116年(明治249年)に開港した神戸、2117年(明治250年)に開港した横浜、2118年(明治251年)に開港した神戸、2119年(明治252年)に開港した横浜、2120年(明治253年)に開港した神戸、2121年(明治254年)に開港した横浜、2122年(明治255年)に開港した神戸、2123年(明治256年)に開港した横浜、2124年(明治257年)に開港した神戸、2125年(明治258年)に開港した横浜、2126年(明治259年)に開港した神戸、2127年(明治260年)に開港した横浜、2128年(明治261年)に開港した神戸、2129年(明治262年)に開港した横浜、2130年(明治263年)に開港した神戸、2131年(明治264年)に開港した横浜、2132年(明治265年)に開港した神戸、2133年(明治266年)に開港した横浜、2134年(明治267年)に開港した神戸、2135年(明治268年)に開港した横浜、2136年(明治269年)に開港した神戸、2137年(明治270年)に開港した横浜、2138年(明治271年)に開港した神戸、2139年(明治272年)に開港した横浜、2140年(明治273年)に開港した神戸、2141年(明治274年)に開港した横浜、2142年(明治275年)に開港した神戸、2143年(明治276年)に開港した横浜、2144年(明治277年)に開港した神戸、2145年(明治278年)に開港した横浜、2146年(明治279年)に開港した神戸、2147年(明治280年)に開港した横浜、2148年(明治281年)に開港した神戸、2149年(明治282年)に開港した横浜、2150年(明治283年)に開港した神戸、2151年(明治284年)に開港した横浜、2152年(明治285年)に開港した神戸、2153年(明治286年)に開港した横浜、2154年(明治287年)に開港した神戸、2155年(明治288年)に開港した横浜、2156年(明治289年)に開港した神戸、2157年(明治290年)に開港した横浜、2158年(明治291年)に開港した神戸、2159年(明治292年)に開港した横浜、2160年(明治293年)に開港した神戸、2161年(明治294年)に開港した横浜、2162年(明治295年)に開港した神戸、2163年(明治296年)に開港した横浜、2164年(明治297年)に開港した神戸、2165年(明治298年)に開港した横浜、2166年(明治299年)に開港した神戸、2167年(明治300年)に開港した横浜、2168年(明治301年)に開港した神戸、2169年(明治302年)に開港した横浜、2170年(明治303年)に開港した神戸、2171年(明治304年)に開港した横浜、2172年(明治305年)に開港した神戸、2173年(明治306年)に開港した横浜、2174年(明治307年)に開港した神戸、2175年(明治308年)に開港した横浜、2176年(明治309年)に開港した神戸、2177年(明治310年)に開港した横浜、2178年(明治311年)に開港した神戸、2179年(明治312年)に開港した横浜、2180年(明治313年)に開港した神戸、2181年(明治314年)に開港した横浜、2182年(明治315年)に開港した神戸、2183年(明治316年)に開港した横浜、2184年(明治317年)に開港した神戸、2185年(明治318年)に開港した横浜、2186年(明治319年)に開港した神戸、2187年(明治320年)に開港した横浜、2188年(明治321年)に開港した神戸、2189年(明治322年)に開港した横浜、2190年(明治323年)に開港した神戸、2191年(明治324年)に開港した横浜、2192年(明治325年)に開港した神戸、2193年(明治326年)に開港した横浜、2194年(明治327年)に開港した神戸、2195年(明治328年)に開港した横浜、2196年(明治329年)に開港した神戸、2197年(明治330年)に開港した横浜、2198年(明治331年)に開港した神戸、2199年(明治332年)に開港した横浜、2200年(明治333年)に開港した神戸、2201年(明治334年)に開港した横浜、2202年(明治335年)に開港した神戸、2203年(明治336年)に開港した横浜、2204年(明治337年)に開港した神戸、2205年(明治338年)に開港した横浜、2206年(明治339年)に開港した神戸、2207年(明治340年)に開港した横浜、2208年(明治341年)に開港した神戸、2209年(明治342年)に開港した横浜、2210年(明治343年)に開港した神戸、2211年(明治344年)に開港した横浜、2212年(明治345年)に開港した神戸、2213年(明治346年)に開港した横浜、2214年(明治347年)に開港した神戸、2215年(明治348年)に開港した横浜、2216年(明治349年)に開港した神戸、2217年(明治350年)に開港した横浜、2218年(明治351年)に開港した神戸、2219年(明治352年)に開港した横浜、2220年(明治353年)に開港した神戸、2221年(明治354年)に開港した横浜、2222年(明治355年)に開港した神戸、2223年(明治356年)に開港した横浜、2224年(明治357年)に開港した神戸、2225年(明治358年)に開港した横浜、2226年(明治359年)に開港した神戸、2227年(明治360年)に開港した横浜、2228年(明治361年)に開港した神戸、2229年(明治362年)に開港した横浜、2230年(明治363年)に開港した神戸、2231年(明治364年)に開港した横浜、2232年(明治365年)に開港した神戸、2233年(明治366年)に開港した横浜、2234年(明治367年)に開港した神戸、2235年(明治368年)に開港した横浜、2236年(明治369年)に開港した神戸、2237年(明治370年)に開港した横浜、2238年(明治371年)に開港した神戸、2239年(明治372年)に開港した横浜、2240年(明治373年)に開港した神戸、2241年(明治374年)に開港した横浜、2242年(明治375年)に開港した神戸、2243年(明治376年)に開港した横浜、2244年(明治377年)に開港した神戸、2245年(明治378年)に開港した横浜、2246年(明治379年)に開港した神戸、2247年(明治380年)に開港した横浜、2248年(明治381年)に開港した神戸、2249年(明治382年)に開港した横浜、2250年(明治383年)に開港した神戸、2251年(明治384年)に開港した横浜、2252年(明治385年)に開港した神戸、2253年(明治386年)に開港した横浜、2254年(明治387年)に開港した神戸、2255年(明治388年)に開港した横浜、2256年(明治389年)に開港した神戸、2257年(明治390年)に開港した横浜、2258年(明治391年)に開港した神戸、2259年(明治392年)に開港した横浜、2260年(明治393年)に開港した神戸、2261年(明治394年)に開港した横浜、2262年(明治395年)に開港した神戸、2263年(明治396年)に開港した横浜、2264年(明治397年)に開港した神戸、2265年(明治398年)に開港した横浜、2266年(明治399年)に開港した神戸、2267年(明治400年)に開港した横浜、2268年(明治401年)に開港した神戸、2269年(明治402年)に開港した横浜、2270年(明治403年)に開港した神戸、2271年(明治404年)に開港した横浜、2272年(明治405年)に開港した神戸、2273年(明治406年)に開港した横浜、2274年(明治407年)に開港した神戸、2275年(明治408年)に開港した横浜、2276年(明治409年)に開港した神戸、2277年(明治410年)に開港した横浜、2278年(明治411年)に開港した神戸、2279年(明治412年)に開港した横浜、2280年(明治413年)に開港した神戸、2281年(明治414年)に開港した横浜、2282年(明治415年)に開港した神戸、2283年(明治416年)に開港した横浜、2284年(明治417年)に開港した神戸、2285年(明治418年)に開港した横浜、2286年(明治419年)に開港した神戸、2287年(明治420年)に開港した横浜、2288年(明治421年)に開港した神戸、2289年(明治422年)に開港した横浜、2290年(明治423年)に開港した神戸、2291年(明治424年)に開港した横浜、2292年(明治425年)に開港した神戸、2293年(明治426年)に開港した横浜、2294年(明治427年)に開港した神戸、2295年(明治428年)に開港した横浜、2296年(明治429年)に開港した神戸、2297年(明治430年)に開港した横浜、2298年(明治431年)に開港した神戸、2299年(明治432年)に開港した横浜、2300年(明治433年)に開港した神戸、2301年(明治434年)に開港した横浜、2302年(明治435年)に開港した神戸、2303年(明治436年)に開港した横浜、2304年(明治437年)に開港した神戸、2305年(明治438年)に開港した横浜、2306年(明治439年)に開港した神戸、2307年(明治440年)に開港した横浜、2308年(明治441年)に開港した神戸、2309年(明治442年)に開港した横浜、2310年(明治443年)に開港した神戸、2311年(明治444年)に開港した横浜、2312年(明治445年)に開港した神戸、2313年(明治446年)に開港した横浜、2314年(明治447年)に開港した神戸、2315年(明治448年)に開港した横浜、2316年(明治449年)に開港した神戸、2317年(明治450年)に開港した横浜、2318年(明治451年)に開港した神戸、2319年(明治452年)に開港した横浜、2320年(明治453年)に開港した神戸、2321年(明治454年)に開港した横浜、2322年(明治455年)に開港した神戸、2323年(明治456年)に開港した横浜、2324年(明治457年)に開港した神戸、2325年(明治458年)に開港した横浜、2326年(明治459年)に開港した神戸、2327年(明治460年)に開港した横浜、2328年(明治461年)に開港した神戸、2329年(明治462年)に開港した横浜、2330年(明治463年)に開港した神戸、2331年(明治464年)に開港した横浜、2332年(明治465年)に開港した神戸、2333年(明治466年)に開港した横浜、2334年(明治467年)に開港した神戸、2335年(明治468年)に開港した横浜、2336年(明治469年)に開港した神戸、2337年(明治470年)に開港した横浜、2338年(明治471年)に開港した神戸、2339年(明治472年)に開港した横浜、2340年(明治473年)に開港した神戸、2341年(明治474年)に開港した横浜、2342年(明治475年)に開港した神戸、2343年(明治476年)に開港した横浜、2344年(明治477年)に開港した神戸、2345年(明治478年)に開港した横浜、2346年(明治479年)に開港した神戸、2347年(明治480年)に開港した横浜、2348年(明治481年)に開港した神戸、2349年(明治482年)に開港した横浜、2350年(明治483年)に開港した神戸、2351年(明治484年)に開港した横浜、2352年(明治485年)に開港した神戸、2353年(明治486年)に開港した横浜、2354年(明治487年)に開港した神戸、2355年(明治488年)に開港した横浜、2356年(明治489年)に開港した神戸、2357年(明治490年)に開港した横浜、2358年(明治491年)に開港した神戸、2359年(明治492年)に開港した横浜、2360年(明治493年)に開港した神戸、2361年(明治494年)に開港した横浜、2362年(明治495年)に開港した神戸、2363年(明治496年)に開港した横浜、2364年(明治497年)に開港した神戸、2365年(明治498年)に開港した横浜、2366年(明治499年)に開港した神戸、2367年(明治500年)に開港した横浜、2368年(明治501年)に開港した神戸、2369年(明治502年)に開港した横浜、2370年(明治503年)に開港した神戸、2371年(明治504年)に開港した横浜、2372年(明治505年)に開港した神戸、2373年(明治506年)に開港した横浜、2374年(明治507年)に開港した神戸、2375年(明治508年)に開港した横浜、2376年(明治509年)に開港した神戸、2377年(明治510年)に開港した横浜、2378年(明治511年)に開港した神戸、2379年(明治512年)に開港した横浜、2380年(明治513年)に開港した神戸、2381年(明治514年)に開港した横浜、2382年(明治515年)に開港した神戸、2383年(明治516年)に開港した横浜、2384年(明治517年)に開港した神戸、2385年(明治518年)に開港した横浜、2386年(明治519年)に開港した神戸、2387年(明治520年)に開港した横浜、2388年(明治521年)に開港した神戸、2389年(明治522年)に開港した横浜、2390年(明治523年)に開港した神戸、2391年(明治524年)に開港した横浜、2392年(明治525年)に開港した神戸、2393年(明治526年)に開港した横浜、2394年(明治527年)に開港した神戸、2395年(明治528年)に開港した横浜、2396年(明治529年)に開港した神戸、2397年(明治530年)に開港した横浜、2398年(明治531年)に開港した神戸、2399年(明治532年)に開港した横浜、2400年(明治533年)に開港した神戸、2401年(明治534年)に開港した横浜、2402年(明治535年)に開港した神戸、2403年(明治536年)に開港した横浜、2404年(明治537年)に開港した神戸、2405年(明治538年)に開港した横浜、2406年(明治539年)に開港した神戸、2407年(明治540年)に開港した横浜、2408年(明治541年)に開港した神戸、2409年(明治542年)に開港した横浜、2410年(明治543年)に開港した神戸、2411年(明治544年)に開港した横浜、2412年(明治545年)に開港した神戸、2413年(明治546年)に開港した横浜、2414年(明治547年)に開港した神戸、2415年(明治

特色2 日本や世界の歴史に対する興味・関心を高める工夫

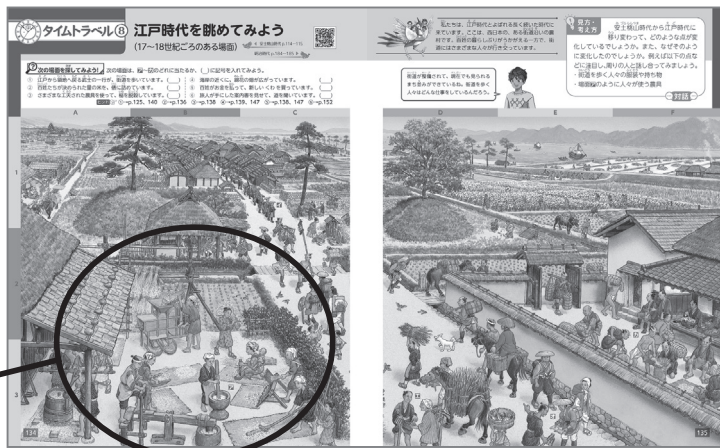
1. 各時代の社会の様子をイラストで概観し、生徒の気づきを促す「タイムトラベル」

- 大きなイラストで各時代の様子を概観する特設「タイムトラベル」(全12テーマ)を、各時代のはじめに設けています。イラストの読み解きや「見方・考え方」を働かせる活動を通じて、当時の社会への関心を高め、学習する時代の見通しを立てることができます。
- 本文ページに、関連する「タイムトラベル」へのリンクを置いており、学習を通じて、生徒が新たな気づきを得るように工夫しています。

一方、農民たちも、土地を深く耕すことができる**備中鍬**や、楽に脱穀ができる千歯こきなどの**農具**を使用し、**干鰯**や**油かす**などの、

▶ 本文ページのタイムトラベルへのリンク (p.138)

▶ タイムトラベル⑧ 江戸時代を眺めてみよう (p.134-135)



2. イラスト・世界地図で、世界の歴史へ興味・関心を広げる「世界とのつながりを考えよう」

- 日本と世界のつながりが重視される時代では、特設「世界とのつながりを考えよう」を設けています。イラスト・世界地図を通じて、世界の歴史に興味・関心をもてるよう工夫しています。また、日本の歴史を国際的な視野で捉えることができます。

▶ 世界とのつながりを考えよう イラスト編① 唐の都 長安 (p.50-51)



単元	世界とのつながりを考えよう
2章3節	8世紀ごろの世界 (地図編①)
2章3節	唐の都 長安 (イラスト編①)
3章2節	13世紀ごろの世界 (地図編②)
4章1節	16世紀初めごろの世界 (地図編③)
5章1節	産業革命期のイギリス (イラスト編②)
5章1節	19世紀ごろの世界 (地図編④)

3. 毎時の知識の定着を促す本文ページ

- 本文ページは、見開き1授業時数とし、115時数分を設定しています。年間授業時数の中で無理なく着実に学習を進めることができます。また、**構造化された紙面構成**によって、学習内容への理解を深め、知識を着実に定着できます。

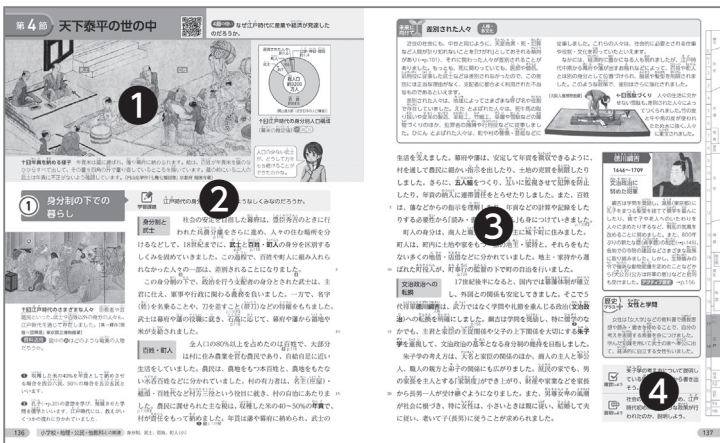
興味・関心を高める導入資料 学習内容につながる**歴史的資料**です (①)。

学習内容を見通す学習課題 見開き全体の学習内容を見通す問いです (②)。

わかりやすい本文記述 因果関係が丁寧に説明され、**歴史的事象**が起きた理由や相互の関係を理解することができる本文です (③)。

知識と理解を深める問い 重要事項を確認できる「**確認しよう**」、言語活動で学習内容を振り返る「**説明しよう**」を設定しています (④)。

▶ 本文ページの紙面構成 (p.136-137)



- 各所に「**資料活用アイコン**」を設け、統計や写真から情報を読み取る力を、日々の学習で身につけることができます。また、**地図帳の活用**を促す「**地図帳活用アイコン**」を設け、地形の読み解きや統計資料から、地理的事象と関連させた、深い学びを得ることができます。

特色3 多面的・多角的な見方を養い、社会の多様性を認める態度を育成する工夫

1. さまざまな視点で歴史への理解を深める、文化史・社会史・地域史の充実

・コラム「地域史」や特設「歴史を探ろう」を豊富に掲載し、歴史的事象を中央の政治の歴史だけでなく、文化・社会・国際・地方などさまざまな視点で捉えることができます。

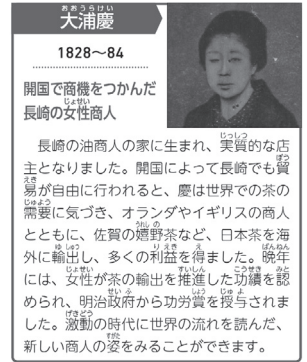
2. さまざまな人々の営みや連携・協働する姿をつかませる工夫

・「人物コラム」を49か所に設けています。歴史上の人物たちの主体的な取り組みや、当時の社会的課題へのアプローチを学ぶことができます。



▲地域史「世界の銀を支えた石見銀山」(p.113)

▶人物コラム「大浦慶」(p.181)



特色4 持続可能な社会の形成に向けた取り組みを促進する工夫

1. 持続可能な社会への視点を養う「未来に向けて」

▼未来に向けて よりよい社会を目指して (巻頭 1-2)

・持続可能な社会の形成に活かせる事例を取り上げた「未来に向けて」を、巻頭・巻末や本体各所に設けています。「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6種類のテーマを、地理的分野・公民的分野と共通で扱い、持続可能な社会の形成に向けて、学びに向かう力を育成することができます。

・巻頭でSDGsの17の目標と、地球的な諸課題の解決に向けてヒントとなる過去の事例を紹介しています。



2. 対話的な学びを通じて歴史学習と地球的な諸課題を結びつける工夫

・「学習を振り返ろう」で時代の特色を表現したあとに、現在やSDGsとのつながりを考える学習を設けています。この気づきが、最終単元「これからの社会を構想しよう」で活用できるようにしています。学習した観点を踏まえてこれからの社会を構想するとともに、学びを公民的分野の学習へとつなげていきます。

▶これからの社会を構想しよう (p.308-309)



特色5 編修上の工夫

1. すべての生徒が使いやすいユニバーサルデザインに基づいた編修

- ・特別支援教育の専門家からの助言をもとに、図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、インクルーシブ教育へ配慮した編修を行っています。
- ・文字は、読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。また、重要語句を示すゴシック体の太さやルビの見やすさにも工夫を凝らしました。
- ・配色は、色覚特性に配慮した識別しやすい色づかいとなるように工夫しています。また、図版に模様や線、記号などを使用することによって、色以外からも情報を読み取れるようにしています。
- ・学習者用デジタル教科書を発行し、ふりがなや音読、色の反転などの機能を付加しています。

2. 生徒の個別最適な学びを支援するQRコンテンツ

- ・学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するコンテンツを多数掲載し、個別最適な学びを支援します。
- ・教科書の学習内容とリンクした「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」のイラスト・地図や「学習を振り返ろう」「アクティブ歴史」のワークシートなどで、学習内容の定着を支援します。

- ・「用語解説」「巻末年表」のほか「NHK for School」や「リンク集」など、生徒がみずから学習内容を深める際の足がかりとなるコンテンツを用意しています。
- ・そのほか「他分野教科書リンク」「教科書を活用した学び方」「思考ツール・白地図」を掲載しています。

3. 指導しやすさ・学びやすさ向上のための取り組み

- ・小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・地理・公民・他教科の関連アイコン」を示し、既習事項を踏まえて、物事を**多面的・多角的に捉える**足がかりを設けました。また、分野間・教科間での**カリキュラムマネジメント**を実施する指標となるようにしています。
- ・**1 見開き 1 時間**での授業を原則とし、適切な分量で学習計画を立てやすくしています。「学習を振り返ろう」も含めて、総授業時数を 130 時間（標準時間 135 時間）としています。
- ・単元が進むに従い、学習課題やまとめで問う内容をより高度にするなど、発達段階に配慮しています。
- ・男女のイラストで役割を限定しないなど、**ジェンダーの固定観念をもたないように**配慮しました。

4. 使いやすく、環境に配慮した印刷・製本の工夫

- ・紙は軽くて丈夫で、写真や図版が鮮明にうつるものを使用しています。
- ・再生紙を用いた紙を国産米の米ぬかからつくられるインキを使用し、環境への配慮をしています。
- ・堅牢な造本方式を採用し、使用期間中壊れることがないようにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 歴史のとらえ方と調べ方 1 節 歴史の流れと時代区分 2 節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた	A A (1) A (2)	p.2-13 p.2-7 p.8-13	11
第2章 古代国家の成立と東アジア 1 節 人類の登場から文明の発生へ 2 節 東アジアのなかの倭 (日本) 3 節 中国にならった国家づくり 4 節 展開する天皇・貴族の政治	B (1) B (1) B (1) B (1)	p.15-62 p.16-25 p.26-33 p.36-51 p.52-59	20
第3章 武家政権の成長と東アジア 1 節 武士の世の始まり 2 節 武家政権の内と外 3 節 人々の結びつきが強まる社会	B (2) B (2) B (2) B (2)	p.63-104 p.64-75 p.78-89 p.90-101	16
第4章 武家政権の展開と世界の動き 1 節 大航海によって結びつく世界 2 節 戦乱から全国統一へ 3 節 武士による全国支配の完成 4 節 天下泰平の世の中 5 節 社会の変化と幕府の対策	B (3) B (3) B (3) B (3) B (3)	p.105-160 p.106-113 p.114-123 p.124-133 p.134-145 p.146-155	21
第5章 近代国家の歩みと国際社会 1 節 欧米諸国における近代化 2 節 開国と幕府の終わり 3 節 明治政府による近代化の始まり 4 節 近代国家への歩み 5 節 帝国主義と日本 6 節 アジアの強国の光と影	C (1) C (1) C (1) C (1) C (1) C (1)	p.161-226 p.162-175 p.176-183 p.184-193 p.194-203 p.206-213 p.214-223	26
第6章 二度の世界大戦と日本 1 節 第一次世界大戦と民族独立の動き 2 節 高まるデモクラシーの意識 3 節 戦争に向かう世論 4 節 第二次世界大戦の惨禍	C (1) C (1) C (1) C (1) C (1)	p.227-274 p.228-235 p.236-247 p.250-261 p.262-271	19
第7章 現在に続く日本と世界 1 節 敗戦から立ち直る日本 2 節 世界の多極化と日本の成長 3 節 これからの日本と世界	C (2) C (2) C (2) C (2)	p.275-306 p.276-283 p.284-297 p.298-303	14
これからの社会を構想しよう		p.307-309	3
			計 130 時間